

下記URLまたはFAXでお申し込みください

<https://www.jmac.co.jp/seminar/list.html> FAX:03-4531-4301

参加料 32,400円(資料・昼食・交流会・消費税込み) 定員 300名(お申込み順)

▶参加申込方法

- ・参加希望の方は、インターネットもしくは下記申込書にご記入の上、FAXにてお送りください。
- ・お申込み順にて受付、後日参加証・請求書をお送りします。

▶ご注意

- ・各セッションとも定員になり次第締切とさせていただきます。
- ・FAXでのお申込みは、開催日の3日前まで受付いたします。
- ・同業者はお断りする場合がございます。
- ・諸事情により開催を中止させていただく場合がございますので予めご了承ください。
- ・ご案内のご送付先変更・中止などのご希望の方は、お手数ですがご希望内容記載の上、メール、FAXにて本大会事務局までご連絡くださいようお願い申し上げます。

▶お支払いについて

- ・参加料は請求書到着後1週間以内に請求書の銀行口座へお振込ください(振り込み手数料は貴社でご負担願います)。

▶キャンセル規定

- ・参加者のご都合が悪い場合は、代理の方の出席をお願いいたします。
- ・代理の方もご都合が悪い場合は開催日の前々日(土/日/祝日を除く)までに以下問い合わせ先までご連絡ください。
- ・開催日の前々日(土/日/祝日を除く)までに参加者ご本人や代理出席の方の欠席のご連絡をいただきました場合のみ、入金確認後、振り込み手数料を差し引いた残額を返金させていただきます。
- ・開催日前日(土/日/祝日を除く)や開催当日に欠席のご連絡をいただきました場合は、ご返金できませんので予めご了承ください。

第22回 開発・技術マネジメント革新大会 申込書 FAX:03-4531-4301

▶参加証・請求書のご送付方法はどちらを希望されますか。 ☐ E-Mail 希望 ※ PDF 形式のファイルとなります。 ☐ 郵送希望

貴社名 事業所名	フリガナ	業種	1. 食料品	2. 繊維製品	3. パルプ・紙	4. 化学
	フリガナ		5. 医薬品	6. 石油・石炭製品	7. ゴム・皮革	8. 金属・鉄鋼製品
住 所	フリガナ	業種	9. 機械	10. 電気機器	11. 輸送用機器	12. 精密機器
	〒		13. その他製造業	14. 電気・ガス業	15. 運輸・通信業	16. 卸売業
			17. 小売業	18. 金融・保険業	19. 建設・不動産業	20. サービス業
			21. 公共	22. その他		

申込者 ※	氏 名	フリガナ	部署名 / 役職名	A	B	C
	TEL					
	E-mail					
	☐ 参加する ☐ 参加しない					

●申込者が参加者の場合、下記への記載は不要です。

参加者 ①	氏 名	フリガナ	部署名 / 役職名	A	B	C
	TEL					
	E-mail					

参加者 ②	氏 名	フリガナ	部署名 / 役職名	A	B	C
	TEL					
	E-mail					

参加者 ③	氏 名	フリガナ	部署名 / 役職名	A	B	C
	TEL					
	E-mail					

※印の宛てに参加証・請求書をまとめてご送付します。(不都合がある場合は、備考欄にご記入ください。)

備 考	
-----	--

- ・本個人情報、弊社事業活動におけるセミナー、イベント、アンケートのお願いなどに活用させていただくことがあります。
- ・弊社は、収集した個人情報を適切に取り扱い、第三者への提供は行いません。
- ・本情報の訂正、削除などをご希望される場合には、問い合わせ先「第22回 開発・技術マネジメント革新大会事務局」までご連絡ください。

問い合わせ先

株式会社日本能率協会コンサルティング 第22回 開発・技術マネジメント革新大会事務局
TEL : 03-4531-4307 FAX : 03-4531-4301 E-mail : event_consult@jmac.co.jp

第22回

開発・技術 マネジメント革新大会

engineering discover experiment development global challenge value technology customers spirit

進化しつづけるRD&Eマネジメント
～変わらないスピリットと絶えまないイノベーションへの挑戦～

研究・開発に携わられている皆様におかれましては、先の読みにくい事業環境の下、企業の持続的成長や価値創造に向けて日々取り組まれていることと存じます。

本年も昨年に引き続き「進化しつづけるRD&Eマネジメント ～変わらないスピリットと絶えまないイノベーションへの挑戦～」を基本コンセプトとし、「創業精神」、「R&Dの信念」といったマネジメントの価値観や基軸を大切にしつつ、イノベーションに果敢に挑戦していらっしゃる方々にご講演いただきます。

分科会セッションでは「これからの新事業創造を語る」、「開発機能強化を語る」、「R&D組織変革へのチャレンジを語る」といったテーマについて、事例発表を踏まえ、ご参加の方々との意見交換、学び合いの場にしたいと考えております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

開催日 2018年6月7日[木] 時 間 9:45～19:00(受付9:15～)

会 場 東京コンファレンスセンター・品川 主 催 株式会社日本能率協会コンサルティング

プログラム

09:45 ▶ 10:00	開催にあたり
10:00 ▶ 11:30	基調講演1 新事業への挑戦と研究者・技術者への期待
12:30 ▶ 14:00	基調講演2 世界をワクワクさせる体験を! ～「どうせ無理」から「こんなことも出来るのか!」への挑戦～
	Aセッション これからの新事業創造を語る
14:15 ▶ 17:15	Bセッション 開発機能強化を語る
	Cセッション R&D組織変革へのチャレンジを語る
17:30 ▶ 19:00	参加者交流会

共通セッション [10:00～14:00] ※講演時間および内容は変更の可能性がございます。

基調講演 1 新事業への挑戦と研究者・技術者への期待

キャノン電子株式会社 代表取締役社長 酒巻 久 氏



キャノン電子グループは共生の理念（キャノングループ理念）のもと、「高品質企業」の実現を掲げ経営に取り組んでまいりました。世界の人々から信頼され尊敬される企業像をめざすものです。具体的には地球環境保全（①環境保証）に立脚して、本分の収益（②高収益）を追求し、ステークホルダーや地域社会の皆様との価値観の共有、協調協働（③深い絆）にもとづいて事業活動を展開するというものです。このような理念のもと、当社グループは収益の拡大を目指して、レーザービームプリンター、ドキュメントスキャナー、デジタルカメラのシャッターや絞りユニットなどを中心とした現在の事業領域の生産性向上に加えて宇宙関連ビジネスなど新たな事業の開発にも積極的に取り組んでいます。講演では、昨年6月23日に超小型人工衛星「CE-SAT-1」の打ち上げに成功し、本格的な事業化のスタートを切った宇宙関連ビジネスを具現化するまでの取り組みや、経営者として研究者や技術者に対して期待すること等についてお話しします。

【略歴】
1967年キャノン入社。複写機やファクス、ワープロ、電卓などを開発した後、パソコン「NAVI」の開発を手掛けたシステム事業本部部長時代には、スティーブ・ジョブズ氏が設立した米ネクストコンピュータに出資した。89年取締役、96年常務取締役生産本部部長などを経て、99年キャノン電子社長就任。また技術者としての特許は700件にも上り、「見抜く力 リーダーは本質を見極めよ」（朝日新聞出版）など企業経営に関する著書も多数。

基調講演 2 世界をワクワクさせる体験を！ ～「どうせ無理」から「こんなことも出来るのか！」への挑戦～

GLM株式会社 COO 田中 智久 氏



京都には世界で活躍するテクノロジー企業が集積しています。これら企業の技術を集めれば電気自動車の基幹システムが全てそろうと言われていました。1996年、自由の学風で知られる京都大学のベンチャー・ビジネス・ラボラトリーで発足した「京都電気自動車プロジェクト」は、京都のテクノロジー企業と大学の研究を結びつけ、様々な要素技術の研究・開発を行ってきました。GLMはこのプロジェクトの技術・企業ネットワークを継承し、2010年に事業化いたしました。水平分業型ビジネスモデルによる、新しいものづくりの始まりです。GLMが少量生産のスポーツカーを生み出したことは小さな一歩です。しかし、この一歩は世界を変える大きな一歩になります。この度の講演では、小さなベンチャー企業が自動車メーカーとして確立されるまでのサクセスストーリーやユニークなビジネスプラットフォームによる成長戦略について、ビジョン展開・技術開発・チームづくりをポイントに紹介いたします。今までになかった心躍る体験を一緒にしましょう。

【略歴】
1986年京都市生まれ。京都大学大学院在籍時にGLMの創業に携わり、外資系食品メーカーを経て2013年GLM入社。経営企画室マネージャーとして国内外マーケティング、事業開発、外部アライアンスに従事。2015年よりCOOに就任。

午後 セッション [14:15～17:15] 3セッションから一つお選び頂き、お申込みください。

A セッション

これからの新事業創造を語る

【講演】 14：15～17：15

未来予測に基づく新規事業企画の要諦

株式会社日本能率協会コンサルティング
チーフ・コンサルタント 小田原 英輝

中長期の研究開発に取り組む RD&E 部門における新規事業企画の取り組みにおいて、メガトレンドや技術進化の影響を踏まえた未来予測の視点は不可欠です。本講演では、未来予測に基づいて新規事業を企画する複数のアプローチを概観しながら、その取り組みのポイントについて紹介致します。

技術を起点としたイノベーションを成功させるための視点

株式会社日本能率協会コンサルティング
シニア・コンサルタント 近藤 晋

日本能率協会コンサルティングではこれまで国内企業を中心として技術を起点とした新事業創出のご支援を数多く行ってまいりました。本講演では、これまでの弊社の経験を踏まえて技術を起点とした新事業創出を成功させるためのポイントをお話させていただきと共に、弊社における新事業創出のための取り組みについて紹介致します。

未来Create活動による新規事業創出への継続的な挑戦

東芝テック株式会社
商品・技術戦略企画部 リサーチ&デベロップメントセンター
センター長 附 菅野 浩樹 氏

リサーチ & デベロップメントセンターでは、未来の創造を通じて新規事業を企画する未来 Create 活動に毎年継続して取り組んでいます。センター全員参加の活動で、メガトレンド起点や技術起点、社会課題起点(SDGs:Sustainable Development Goals)など毎年アプローチを変えつつ、新たな新規事業テーマの創出に挑戦しています。本講演では、その取り組み内容や狙い、そこで得た教訓などについて紹介致します。

標準化された技術商業化プロセスの考え方とその実践

先端技術商業化アクセラレーター合同会社
代表 藤森 朝詩 氏

弊社は、科学技術の専門性と標準化された商業化プロセス、国際的なネットワーク、高度な情報生産機能特徴とする先端技術の商業化およびスタートアップへの投資を行う日本の専門機関です。本講演では、弊社における先端技術の商業化を成功させるための基本的な考え方やその実施例、また 2018 年度に計画している新たな技術商業化スキームについて紹介致します。

B セッション

開発機能強化を語る

【講演】 14：15～15：45 【グループディスカッション】 16：00～17：15

長期ビジョンに基づく開発力強化活動の展開～変革リーダーとしての役割発揮～

田島ルーフィング株式会社
開発本部 機能開発部 部長 安部 和広 氏

田島ルーフィングは2019年に創業100周年を迎えます。この大きな節目に向かって、開発部としても新たな役割・ミッションを果たすべく、開発力強化活動を2012年からスタートさせました。足掛け6年の取り組みを、立上げ期・発展期・次への飛躍期に分類し、特に立上げ期～発展期での活動事例を紹介いたします。また、事務局（変革リーダー）としての活動に対する思いや、仕掛け方の工夫点・苦労点なども併せて紹介致します。

【グループディスカッション】

- ◆目的・狙い
 - ・各企業での取り組み / 困り事の交流
 - ・事例発表の理解を深める
- ◆ディスカッションテーマ（案）
 - ・新事業・新商品企画
 - ・開発設計プロセス改革
 - ・設計品質向上
 - ・コストダウン
 - ・開発設計組織マネジメント など

C セッション

R&D組織変革へのチャレンジを語る

【講演】 14：15～17：15

企業の成長を支える人財発掘とネットワーク作り

クラリオン株式会社 スマートコックピット開発本部 技術開発推進部 PMO グループ GL マネージャー 吉田 昭典 氏

自動車産業では、破壊的イノベーションが起きようとしています。新規参入を含め、各社にて様々な顧客価値の創造が進んでいます。当社は、スマートコックピット構想の具現化を加速し、車両情報システムソリューションプロバイダーへ変革中です。また、ボーダーレス化・ダイバーシティ・インクルージョンなど、時流に伴い求められるマネジメント像にも変化が起きています。その中で、トップダウンとボトムアップのバランスをとりながら、人財発掘とネットワーク作りを常に意識し、プロジェクトを連鎖させるようにしています。くじけそうでも継続していける強い意思を持った変革の志士チーム仲間作りについて、今日に至るまでの工夫と葛藤を紹介致します。

課題提起型デジタルカンパニーの実現に向けた R&D トランスフォームの取り組み

コニカミルタ株式会社 開発統括本部 部長 山崎 博彦 氏

弊社が経験した技術革新の激動、創業時事業からの撤退を経て、現在我々は課題提起型デジタルカンパニーを目指す姿としてトランスフォームに取り組んでいます。社会・顧客課題を解決するイノベーションをスピーディに事業展開するために、実践的なイノベーションのフレームワークを制定しました。例えば、コア技術をベースとした技術の新展開、オープンイノベーションの仕掛け、事業と技術を段階的に審議するルールや、イノベーション人材育成の取り組みについて、具体例と課題を織り交ぜながら紹介致します。

「Link technology to customers, Prepare technology for the future.」を実現する R&D を目指して

TDK 株式会社 技術・知財本部 技術企画グループ GM 崔 京九 氏

世界初の磁性材料フェライトの工業化を目的として1935年に創業したTDKは、材料・プロセス技術を基軸に新しい価値創造を続け、日本の電子部品企業を代表する企業に成長してきました。TDKの技術を顧客へ繋ぐと同時に未来の社会に貢献する技術を備えることがTDK R&D組織のミッションです。多様な事業ポートフォリオを持ち、海外売上高比率や外国籍従業員比率が90%を超える企業におけるR&Dの実状とミッションの実現へ向けた取り組みを紹介致します。